



■ 添付資料：参考ブログ

(ブログ原文)

Announcing OPTIC - The Operations Platform for Transformation, Intelligence and Cloud

https://community.microfocus.com/t5/IT-Operations-Management-Blog/Announcing-OPTIC-The-Operations-Platform-for-Transformation/ba-p/2863183?_ga=2.129051788.1443074053.1616982583-11716359.1576028621

OPTIC (Operations Platform for Transformation, Intelligence and Cloud) を発表

執筆: greenetw, Micro Focus Expert, 2021-03-23

IT トランسفォーメーションに向けた IT プラットフォーム

現在、あらゆるソフトウェアベンダーが IT プラットフォームを提供していますが、それにはもっともな理由があるようです。適切な IT プラットフォームは、デジタルトランسفォーメーションの取り組みを支援できます。従業員は、自動化されたフルフィルメントによるサービスのリクエストなど、さまざまなデジタルサービスやデジタルプロセスを利用して、より効率的にセルフサービス化を推進することができます。プラットフォームが優れていれば、統合の構築と維持を行う必要がなくなります。共有データや分析を介して、より優れた知見がもたらされ、UI とベストプラクティスによりユーザーの学習が短縮化され効率向上とコスト低下による改善が見られるはずです。

しかし、すべての IT プラットフォームが等しく作られているわけではありません。多くのプラットフォームは、デフォルトの状態なので、カスタムコーディングが必要です。このコーディング作業は、将来のメンテナンスのための技術的負債を生み出し、人工知能 (AI) / 機械学習 (ML) の価値を押し下げ、総所有コスト (TCO) を増やすことになります。しかも、チーム間で、クラウドとオンプレミスへの複数の投資全体にわたって、各プロセスステップとリコンサイル（照合）プロセスを実装するためのベストプラクティスに同意する必要があります。IT プラットフォームは、リスクを生むものであってはなりません。

Micro Focus ITOM プラットフォームの進化

[Micro Focus、ITOM Platform の新ブランドを発表](#)。OPTIC (Operations Platform for Transformation, Intelligence and Cloud) と命名していますが、今回リブランディングする理由をご紹介します。

Micro Focus の最初の「ITOM プラットフォーム（IT 運用管理プラットフォーム）」は主に、コンテナを使った製品のインストールとアップデートを簡略化する必要性に対処するために、2017 年に発売されました。過去 4 年間にわたって、当社のプラットフォームテクノロジーは進化を続けてきました。マイクロサービスをベースとした共有サービスの増加に伴い、ID 管理、シングルサインオン、コンテナ管理のアプローチを統合し、API ゲートウェイを介した統合機能を拡張してきました。しかも、2020 年に遂げた進展は、まさに次の段階へと進むものでした。

2020 年のテーマは、エクスペリエンスを劇的に高める「集約」でした。この前進が、当社の ITOM Platform に新しい名前が必要だという判断の決め手になりました。実現された特定の集約機能は、次のとおりです。

- ユーザーエクスペリエンスの集約



[HCMX](#) と [Asset Management X](#) のリリースに伴い、非常に直観的なユーザーセルフサービス向けの [SMAX](#) インターフェイスの標準化に着手しました。ゆくゆくは、当社の [Enterprise Service Management](#) 製品のすべてにこのインターフェイスを採用して、エンドユーザーをサポートします。

- **データと分析の集約**

OPTIC Data Lake に改名される [COSO Data Lake](#) は、Micro Focus の [Operations Bridge](#)、[Network Operations Management](#)、[Data Center Automation](#) や膨大な数のサードパーティベンダーのデータの収集、正規化、保存を簡略化します。自動イベント相関など、重要な運用タスクのための一般的なデータ分析とデータ可視化を可能にします。

- **自動化機能の集約**

Micro Focus の [Robotic Process Automation](#) と [Operations Orchestration](#) を統合し、UI と API の両方をベースとした自動化プロセスと自動化ワークフローにおいて、[複数のアプリケーションとデジタルトランスフォーメーションのユースケース](#) にまたがる最高のものを提供します。

- **検出とトポジマッピングの集約**

Micro Focus の [Universal Discovery](#) と [Universal CMDB](#) は、ハイブリッド IT 資産の検出とマッピングに関して、間違いなく世界レベルです。しかも、2020 年、Micro Focus は、[Smart Software Analytics](#) を使って、マルチクラウド、コンテナ、オンプレミス IT の全体でハイブリッド IT 資産を検出しマッピングすることで、認識されていないソフトウェアを特定する単一インスタンスを複数の Micro Focus 製品で提供できるようになりました。

2020 年は、パンデミックにもかかわらず、当社の研究開発チームにとって飛躍の年となりました。この大きな成果の達成によって、OPTIC という新たなブランドを打ち立てることになりました。

Micro Focus IT Platform の違い

Micro Focus は、他社のプラットフォームを追随せずに、リスクを伴わない変革を支援する OPTIC を構築しました。無制限に利用できるインテリジェンスをコアに組み込み、完全なるパートナーとしてクラウドの使用を最適化します。

リスクを伴わない変革

OPTIC は、オープンで構成可能な REST API と多様なコネクターのセットを使って、すでに機能しているものをベースに、実用的なトランسفォーメーションを可能にします。つまり、既存のレポート用のビジネスインテリジェンス (BI) ツールといった、利便性の高い主力システムを置き換える必要はありません。それどころか、リスクを軽減する次のような機能を使用して、これらのソリューションを構築できます。

- 脆弱なカスタムコードを必要とせずに生産性を高めるベストプラクティスを組み込んだ統合型のプロセス自動化。
- 現在の構成に基づいて効率的な管理を可能にするクラウドとオンプレミスの両方の環境に対応した検出とトポジマッピング。
- ユーザーのフラストレーションを軽減すると同時に応答時間とスタッフの効率性を改善するスマートな仮想エージェントを搭載した、ユーザーセルフサービス向けの単一インターフェイス。



- クラウド、コンテナ、as-a-Service、オンプレミスでの柔軟なデプロイメントオプションと、必要に応じて切り替えを可能にする能力。

無制限に利用できるインテリジェンスをコアに組み込む

競合他社は、先を争うようにして AI/ML ツールと連携するか買収するかして追加的な対応を図っています。そして、この AI/ML 機能の利用に対してユーザーに追加請求を行っていますが、OPTIC は違います。無制限に利用できるインテリジェンスをコアに組み込み、さまざまな IT 環境で使用される多様なツールによって生成されたすべてのデータを正規化し、保存し、その意味を理解します。コストを節約するだけでなく、インテリジェンスを組み込むことで、OPTIC の既知のデータソースに合わせて完全に調整されたアルゴリズムによって、より優れた分析が行えるようになります。

完全なるパートナーとしてクラウドの使用を最適化する

OPTIC は、オンプレミスマルチクラウドと並行して、パブリッククラウドサービスの検出、監視、管理、制御を行うことを可能にすることで、カスタマーエクスペリエンスとビジネスリターンを最大化します。クラウドのコストとポリシーに見えない防御線を張ることができます。ハイブリッドクラウドとオンプレミスのすべてのアプリケーションとインフラストラクチャ全体にわたって、パフォーマンスと可用性管理を統合できます。また、マルチクラウドのデプロイメントオプションにより、新たな可能性を追求し続けていくことができます。クラウドをパートナーとする際に、クラウドの俊敏性を維持しながら運用のベストプラクティスを拡張することが可能です。

変革のためのプラットフォーム

一言で表すと、OPTIC は、ビジネスに求められるセルフドライビング IT (運用自動化) の実現に向けて、革新的なサービスの迅速な導入を支援するために構築された自動化エンジンです。すでに機能しているものをベースにして、ビジネスのユーザーエクスペリエンスを統合し、運用効率を高めるために、「高度なテクノロジーを、低リスクで」取り組むことができます。コアに組み込まれているインテリジェンスによって、追加費用なしでツールをよりスマートにすることができます。また、クラウドの使用を最適化することで、あらゆる環境でのサービス提供も最適化できます。端的に言えば、一切のリスクなしで、必要な場所でトランسفォーメーションを実践できます。

#